



校長室だより 40号

中島 悟

【キャッチフレーズ】

未来に残そう 伝え築いた 振徳商業
目指せ 三種目 日本一 !

【来週の行事】 1月30日(日) 全商簿記検定
31日(月) ~卒業試験、商経検定課外
2月 4日(金) クラスマッチ

- 1 「遠い日々」 1回卒 竹井ふみ子 30周年記念誌より抜粋
- 2 出逢ったいい話『事を為そうとすれば、1万回の祈りを捧げよ』 松下幸之助抜粋

「遠い日々」(一部修正) 1回卒 竹井 ふみ子 (旧姓仁木)

高校時代というセピア色の日々、アルバムを繰るように今、思い出しています。第1期生という、望んでも誰でもがなれる訳ではない、特別な高校時代だったのだと、今では思います。

残念ながら、あの頃の制服はもうみることはできません。けっして好きではなかったけど、とても懐かしい気がします。

勉強時間をさいての芝植え、草むしり等…よく作業がありました。あの頃はイヤイヤだったけど、今思うとやっぱり楽しい日々でした。

ほとんど見る人のいない運動会、手さぐりの文化祭、どれもこれも貴重な経験でした。

ないないづくしの学校生活の中で、妙に大きなコンピューターの機器があったことだけは、印象に残っています。時代の先取りだったのでしょうか？

今、娘が同じ学校に通っています。何だか人一倍感慨深いものがあります。娘にとって良き3年間でありますように、祈らずにいられません。卒業して24年経った2年前、恩師の上田先生と餅原先生に父母として再会しました。すぐ、旧姓で呼ばれ、ビックリするやら感激するやら…。父母でありながら、気持ちは生徒として、幸せなPTA活動をさせていただいています。あの頃は、今の3年生のように、公務員のための課外授業もありませんでした。幸い受験した全ての公務員に合格することが出来、私の将来を決定した大事な学校でした。高校受験で迷ったけど、振徳商で良かったと思ったのが、昨日のように思い出されます。気がついたら、あれから26年…。今でも公務員をやっています。ともすれば、仕事と生活の忙がしさに流される日々…。もう一度あの頃のように、充実した日々を送りたいものです。せいっぱい頑張ったと思う高校生活。一生つき合える友達と出会った高校生活。二人目の子供も今年で手元から巣立ちます。これからは、自分のための勉強をしたいと思います。念願の公務員にもなれたのだから、これからは、仕事と家庭の両立をめざして頑張ってい

くつもりです。ずーっと働き続けることが、私の生きる姿勢でもあります。

第1期生の皆さん、又お会いしましょう。街でみかけたら、気軽に声をかけて下さい。

振徳商業が30周年を機に、益々発展しますように……。50周年、100周年と続きますようお願いいたします。

出逢ったいい話 『事を為そうとすれば、1万回の祈りを捧げよ』

特集「人間を磨く」伊與田覺氏（論語普及会学監）の記事より

松下幸之助さんは、「何か事を為そうと思ったら、1万回の祈りを捧げよ」とおっしゃっていました。

祈るとは考えることです。一つのことをこよなく考える。1万回ということは、1日に1回考えて30年かかるんですね。

3回考えても10年だ。朝に昼に夕に30回続けていたら、3年もすれば1万回分の知恵が湧いてくる。

石の上にも3年という諺がありますが、そうやって物事は完成していくんです。

もう一人、私が18歳の時から師事した修養団の創立者・蓮沼門三という方がいらっしゃいました。

99歳でお亡くなりになるまで私のことを我が子のように可愛がってくださったのですが、この方が終戦後、会津から私を訪ねてきてくださいました。ちょうど先生も公職追放になられ、私が印刷所の職工をしていた時です。

当時、職長の日給が800円、下っ端の私は120円です。最低の給料をもらっている私を天下の大先生が訪ねてくださった。蓮沼先生は私と一緒に食事をしながら、しみじみと語ってくださいました。

「物事を成すには道程というものがある。

それは点々相連ねて線を成す。

線々相並べて面を成す。

面々相重ねて体を成す、ということだよ」

と。物事は最初から大きくなるものではありません。点を連ねていくうちにそれが線となり、線を並べて面ができる。面を重ねて一つの物体が体をなすようになる。

表現こそ違え、『中庸』の教えと同じことをおっしゃっているのですね。この先生の言葉は、いまも忘れることはありません。

物事は一朝一夕に完成するものではない、ということですね。思いつきで始めて、いい加減にやっていたのでは、何も成就できずに終わってしまうのです。

まさに「悠久は物を成す」です。